



TORAM NET NEWS Vol.3-1

発行日：2014.2.1 発行：TORAM NET GROUP



北陸便り

松野博明

松野リウマチ整形外科 院長
東京医科大学医学総合研究所 客員准教授



今年も北陸に寒い冬がやってきました。関節リウマチや線維筋痛症などの疼痛性疾患の患者様には辛い季節だと思います。よく疼痛性疾患の持病をお持ちの患者様は気象予報士のように天気がわかると訴えられます。しかし、患者様の中には寒気の入り込む冬ではなく梅雨時期や春先なかには夏に痛みが強くなったと言われる方もいます。そこで以前、疾患活動性により血液検査の数値が変化する関節リウマチの患者様を対象に天候と疾病の程度の検討を試してみました。その結果、天候により患者様の訴えが変わることはありましたが、血液データの変化はありませんでした。私以外にも世界中のリウマチ学者達が、天候とリウマチ性疾患について注目し調査しています。

その結果、天候の中でも低温、低気圧、高湿度との関連が注目されています。しかしその一方でこれらの天候は症状の増悪にあまり関連がないとする調査結果もあります。その理由として個々の患者様が衣類やエアコンなどにより天候の変化を調整している場合、調整の仕方によって個人差が生まれると考察している報告も多くあるようです。また、湿度については外気の変化による相対湿度の変化（服装やエアコンにより調整可能）は、あまり影響しないが、皮膚周囲の絶対湿度は影響するとの報告があります。さらに、天候の変化は複合的に考えるべきで低気圧と高湿度が同時に起こる時期、すなわち移動性低気圧が通過する時期が状態を悪くするとする研究結果もあります。

いずれにしても、天候の変化は衣類、手袋の着用やエアコンの調整により屋内外ともに調整可能であり、天候の変化が疾患そのものを悪い方向に進行させているのではない（一時的な体感としての過ごしにくさを誘発する）ようですので、外気に左右されない工夫をしながら安心してこの時期を乗り切って下さいと患者様には常日頃よりお話しさせてもらっています。

